

経営比較分析表（令和6年度決算）

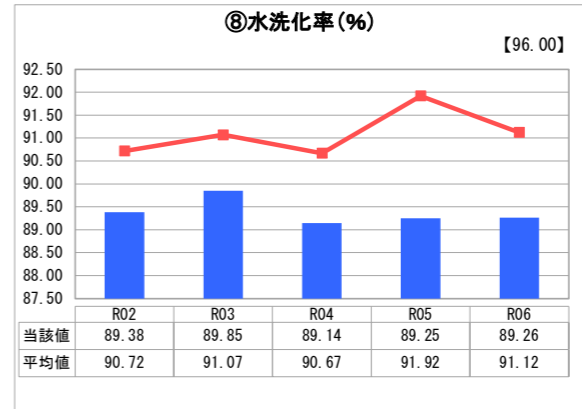
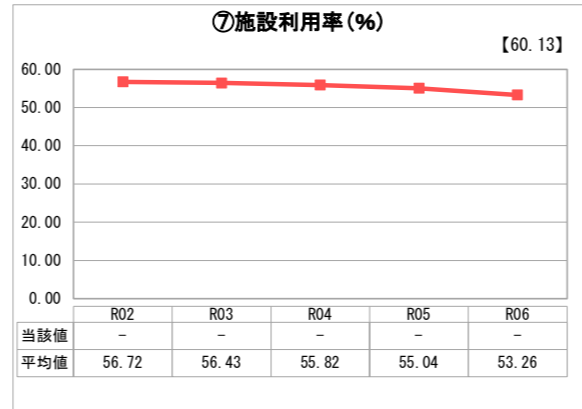
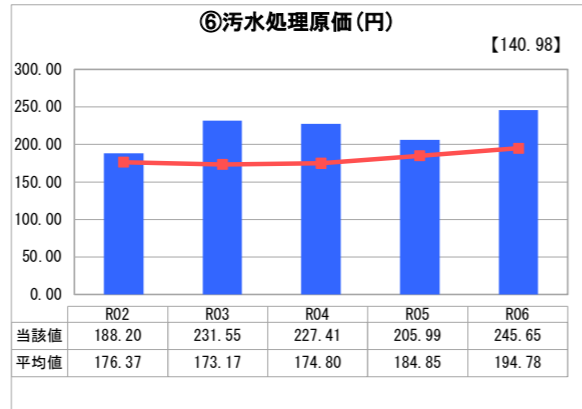
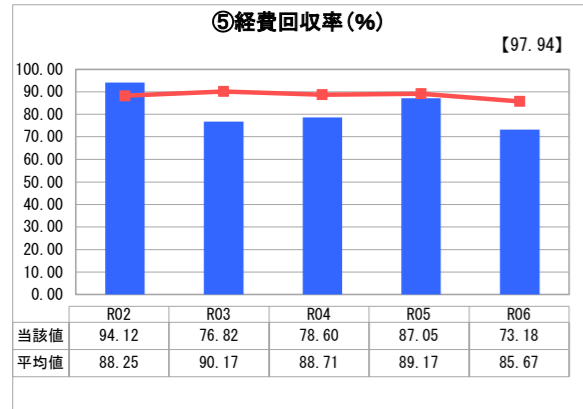
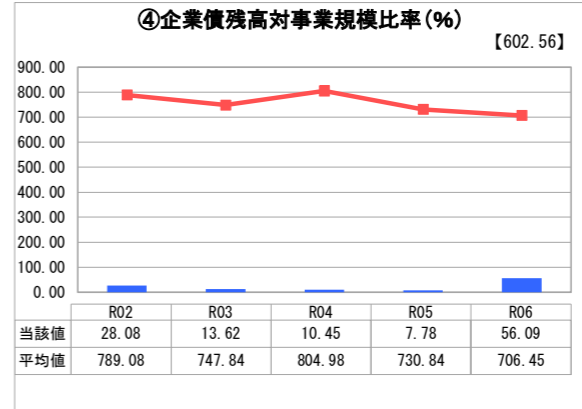
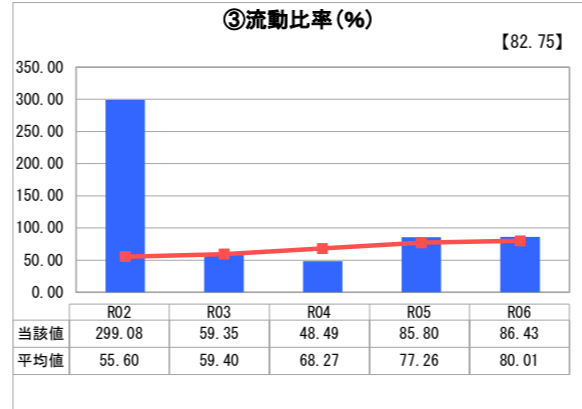
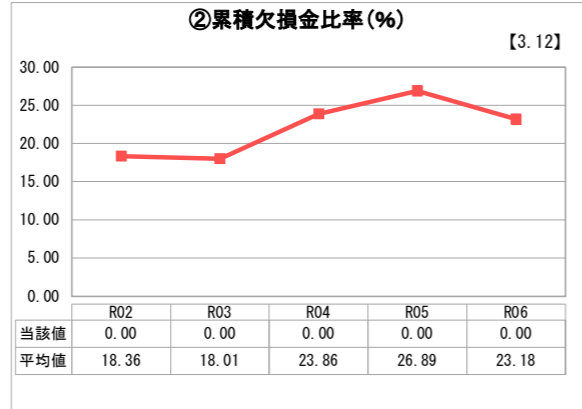
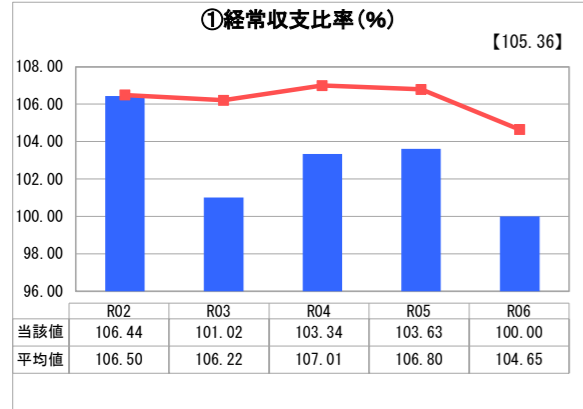
茨城県 潮来市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	61.60	76.39	94.29	3,520

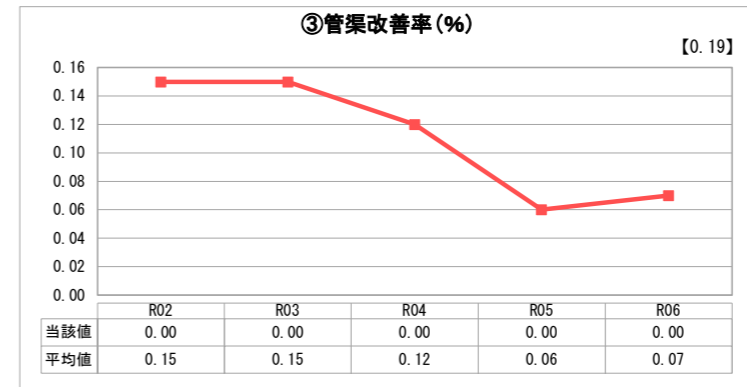
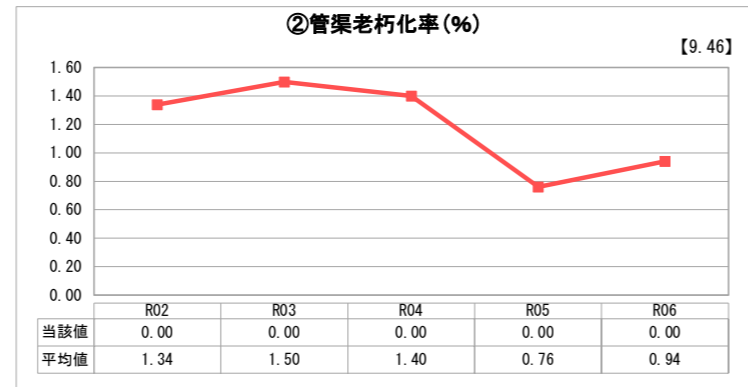
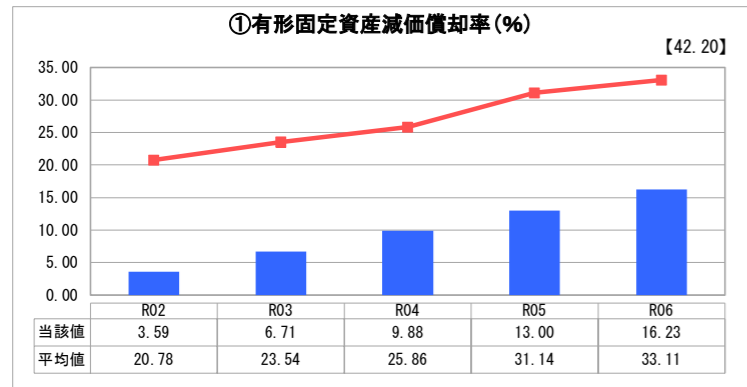
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,088	71.40	365.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
19,791	8.10	2,443.33

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【経常収支比率】
経常収支比率は、100%となっている。しかし、汚水処理に要する経費を下水道使用料だけでは賅い切れておらず、一般会計からの繰入金で補填している状況にある。今後も接続率向上による下水道使用料増加に取り組み、適正な使用料収入の確保に努める。

【企業債残高対事業規模比率】
企業債残高対事業規模比率は、類似団体と比較すると低い値ではあるが今後も適正な使用料の検討を進めていく。

【経費回収率】
経費回収率は、人件費や動力費の高騰などの要因で、昨年度と比較して低下している。接続率の向上による使用料収入等の確保、汚水処理費の削減などにより回収率の向上に努める。

【汚水処理原価】
汚水処理原価は、人件費や動力費の高騰などの要因で昨年度と比較して上昇している。維持管理費の削減等経費の精査、接続率向上による有収水量増加に努める。

【施設利用率】
施設利用率は、0%となっている。これは、公共下水道事業の汚水を茨城県流域下水道施設で処理しているためである。

【水洗化率】
水洗化率は、昨年度と比較してわずかに増加した。引き続き、未接続世帯に対する戸別訪問やダイレクトメールの送付など、水洗化率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

当市の下水道施設は、昭和52年(1977年)に供用を開始し、管渠施設の法定耐用年数である50年を控えている。そのため、適切な更新、維持管理を進めていくとともに財源を確保する必要がある。令和2年度に策定したストックマネジメント計画に基づき、改築事業の平準化及び低減を図る。令和5年度から3か年の継続事業として延方中継ポンプ場改築工事を実施している。(令和7年度完了予定)

全体総括

経営関係は、接続率の上昇など収入は昨年度並みとなったが、人件費や動力費の高騰などの経費が増加したため、経費回収率などの低下、汚水処理原価の増加となった。区域内での人口減少が見込まれるが、引き続き水洗化率向上による使用料の増加に努め、一般会計からの繰入金の削減を図る。また、汚水処理に関する分析・検討を進め、経費回収率の向上や汚水処理原価の削減に努める。

老朽化の問題については、ストックマネジメント計画に基づき、必要な改築・更新を進めていくとともに改築事業の平準化及び低減を図る。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。